

令和7年度 大崎地域市町職員等海外派遣研修事業 報告書



大崎地域広域行政事務組合

令和7年度 大崎地域市町職員等海外派遣研修事業報告書

【目次】

1	団長あいさつ（副管理者 色麻町長 早坂 利悦）	1
2	日程表	2
3	研修内容（1月14日）	
	・ 地方政府，現地日本語学校等のグローバル人材の取組や課題	
	・ 半導体工場，産業施設等の視察	
3-1	新北市農業局について	5
3-2	金山漫遊について	6
3-3	致理科技大学について	7
3-4	東呉大学について	8
3-5	科技探索館について	9
4	研修内容（1月15日）	
	・ 台北 MRT を利用しての歴史，文化施設等の視察	
4-1	中正紀念堂について	10
4-2	台北101について	11
4-3	四四南村について	12
4-4	国立台湾博物館について	13
5	団員研修報告	14
6	団員名簿	33
7	終わりに	34

1 団長あいさつ



団長

大崎地域広域行政事務組合

副管理者 色麻町長 早坂 利悦

本研修事業は、大崎ふるさとづくり基金を活用した若手自治体職員が海外の行政や地域づくりを体験し、国際的視野と新たな発想を身につけ、それを地域の発展に生かすことを目的とした取組です。

このたび、大崎地域市町職員等海外派遣研修事業の団長を拝命し、大崎圏域の次代を担う若手職員11名とともに、とても有意義な海外研修を終えることができました。

研修先の台湾については、過去に訪れた経験がありましたが、今回は、若手団員が研修先である行政機関や教育現場において積極的な意見交換や交流を図り、意欲を持って研修活動に取り組む姿を見ることができました。このような光景を目の当たりにし、団長としての役目を果たすことができ、現地でなければできない貴重な経験や、見聞を広める絶好の機会となりました。

今回の研修で特に印象に残っているのは、日本では、完食が礼儀とされておりますが、台湾では客人が少し残すことで「十分にもてなされた」と示す文化があると知り、食の価値観の違いを実感しました。

最後に、研修に参加させていただきましたことに感謝するとともに、旅行代理店様並びにお世話になりました現地関係者の方々に心から感謝申し上げます。そして団員の皆さんには、この研修で得た学びを自治体業務に活かしていただき、それぞれの自治体の発展に貢献くださることを期待し、あいさつとさせていただきます。



東呉大学にて

2 日程表

1 募集開始から事前研修までの日程表

月 日	内 容
6月12日(木)	大崎地域市町職員等海外派遣研修事業一般団員募集開始
7月22日(火)	団長及び一般団員参加者決定
8月27日(水)	第1回大崎地域市町職員等海外派遣研修事業事前研修 場所 大崎地域広域行政事務組合 本庁舎
10月28日(火)	第2回大崎地域市町職員等海外派遣研修事業事前研修 場所 大崎市立おおさき日本語学校
12月8日(月)	第3回大崎地域市町職員等海外派遣研修事業事前研修 場所 大崎地域広域行政事務組合 本庁舎

2 現地研修日程表

月 日	時 間	滞 在 地	日 程
1月13日(火)	13:30	仙台空港	出発式, その後出国手続き 空路にて台北桃園空港へ 夕食については機内食 入国手続き後バスでホテルへ
	16:15	仙台空港発	
	19:30	台北桃園空港着	
	21:30	ホテル着	
1月14日(水)	8:20	ホテル発	新北市 農業行政関係について 金山漫遊 観光業関係について 致理科技大学 学生との交流
	8:30	JTB 台湾着 研修開始	
	10:30	JTB 台湾発	
	11:00	東呉大学着 研修開始	グローバル人材育成の取組及び 大学施設の見学
	11:30	東呉大学発	
	12:00		昼食
	15:20	科技探索館着	半導体関連施設の視察
	16:20	科技探索館発	
	17:45	ホテル着	夕食
	18:30	ホテル発	
	MRT で夕食会場 へ		

月 日	時 間	滞 在 地	日 程
1月15日(木)	9:00	ホテル発 MRTにて中正紀念堂へ	中正紀念堂の視察
	9:25	中正紀念堂着	
	10:30	中正紀念堂発 MRTにて台北101へ	
	10:50	台北101着	台北101の視察, 昼食
	14:10	台北101発 徒歩で四四南村へ	
	14:20	四四南村着	四四南村の視察
	15:00	四四南村発 MRTで国立台湾博物館へ	
	15:25	国立台湾博物館着	国立台湾博物館の視察
	16:30	国立台湾博物館発 MRTで夕食会場へ	
			夕食
1月16日(金)	6:45	ホテル発	到着後出国手続き 空路にて仙台空港へ 昼食については機内食 入国手続き後帰着式
	7:45	台北桃園空港着	
	10:15	台北桃園空港発	
	14:25	仙台空港着	
	15:45	解散	

3 事後研修から報告会までの日程表

月 日	内 容
1月26日(月)	第1回大崎地域市町職員等海外派遣研修事業事後研修 場所 大崎地域広域行政事務組合 本庁舎
2月26日(木)	第2回大崎地域市町職員等海外派遣研修事業事後研修 場所 大崎地域広域行政事務組合 本庁舎
3月11日(水)	大崎地域市町職員等海外派遣研修事業報告会 場所 大崎地域広域行政事務組合 本庁舎

3 研修内容（1月14日）

・ 地方政府，現地日本語学校等のグローバル人材の 取組や課題

3-1 しんべいし 新北市農業局について

新北市は台湾北部に位置し，台北市を取り囲む形で広がる台湾最大の人口規模を持つ都市である。交通のインフラの整備も進んでおり，鉄道や高速道路などの交通網が発達しており，台北市と一体化した生活圏を形成している。また，都市機能の集積だけでなく，持続可能な地域づくりに力を入れている。

都市化が進む一方で，新北市の特色を支える重要な役割を担っているのが，新北市農政局である。新北市農政局は，農業・漁業・林業の振興を中心に地域資源を活かした持続可能な社会の実現を目指してさまざまな施策を展開している。農政局は生産活動の支援にとどまらず，自然環境の保全や地域経済の活性化を一体的に進める役割を担っている。

具体的には，地元農産物・水産物の品質向上やブランド化，販路拡大を通じて，農業・漁業従事者の安定した経営を支援している。

さらに，新北市農政局は地域ごとの特性を活かした施策にも注力している。金山や淡水などの沿岸地域では漁

業や海洋資源と連携した取組を進め，温泉地や自然景観と結び付けた観光振興を図っている。こうした活動は，地域に滞在型の交流人口を生み出し，地域創生につながるものと考えられている。

新北市農政局の取組は，環境保全と経済活動の両立を目指すものであり，持続可能な社会の実現に向けた実践的なモデルといえる。都市と農村，観光と産業を結びつける農政局の役割は，新北市全体の魅力向上と，次世代を担う人材育成の基盤として重要な意義を持っている。

3 研修内容（1月14日）

・ 地方政府，現地日本語学校等のグローバル人材の 取組や課題

3-2 きんざんまんゆう 金山漫遊について

○「金山漫遊」プロジェクトの概要
台湾新北市金山地区において展開されている「金山漫遊」プロジェクトは、農業・漁業・観光・文化等の地域産業資源を統合し、体験型観光ブランドとして国内外に発信する取組である。新北市政府農業局、金山漫遊、JTBの三者が連携し、特に日本の修学旅行市場を主なターゲットとして事業を展開している。

○行政の関与とブランド形成

新北市政府農業局は、地方創生チームに対する長期的な支援を行い、地域プラットフォーム構築を後押ししてきた。こうした支援のもと、金山・万里地区において「金山漫遊」ブランドが創出された。同ブランドは、日本の「地域観光法人（DMO）」の考え方を参考に、10以上の産業分野や歴史・文化・地質的特徴を統合し、統一したブランドとして発信している。

○JTBとの連携及びSDGsの取組

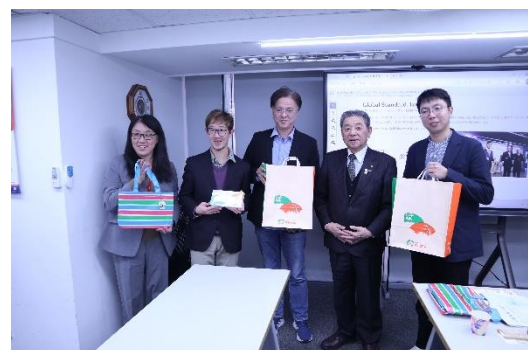
2013年以降、新北市内の複数プロジェクトとJTBとの協力が始まり、現在は金山漫遊とJTBが日本市場向けに集中的な連携体制を構築している。教育旅行の設計にあたっては、SDGsの推進

を重要な目的とし、ISO20121の国際認証を取得している。これにより、学校等からの信頼性向上につながっている。

○環境配慮及び地域循環型の取組

ペットボトル再生素材を活用したエコバッグの配布、年間300回以上のビーチクリーン活動の支援など、環境保全活動が紹介された。

また、廃棄されるサツマイモを活用した野菜クレヨンの商品化や、売上の一部から美術館を通じて子ども向け芸術教育に還元するなど、地域資源を活かした循環型モデルが実践されている。



3 研修内容（1月14日）

・ 現地日本語学校等のグローバル人材の取組や課題

3-3 致理^{ちりかぎ}科技大学について

致理科技大学（Chihlee University of Technology）は、新北市板橋区に所在する私立の科技大学で、1965年に創立された。台湾における技術・職業教育を担う高等教育機関の一つとして、特に商業・経営分野に強みを持つ大学である。

同大学は、実務能力の育成を重視した教育方針を特徴としており、理論と実践を結びつけたカリキュラムが体系的に整備されている。学部・学科構成としては、商学、経営管理、会計、金融、国際貿易、情報管理、応用外国語など、ビジネス分野を中心とした専攻が設けられており、台湾国内でも商業系人材の育成に定評がある。

教育の大きな特徴として、産学連携の取組が挙げられる。企業との共同プログラムやインターンシップが積極的に導入されており、学生は在学中から実際の企業活動や現場業務に触れる機会が多い。これにより、卒業後すぐに実務に対応できる即戦力人材の育成が図られている。また、就職支援にも力を入れており、卒業生の就職率は比較的高水準を維持している。

国際交流にも積極的で、海外の大学との学術交流協定を締結し、留学生の受け入れや学生の海外派遣を行っている。特に、日本を含むアジア地域の大学との交流実績があり、短期研修や交換留学、国際共同プロジェクトなどを通じて、学生の国際的視野の拡大を図っている。近年では、国際ビジネスや観光、サービス産業に対応できる人材育成にも注力している。

キャンパスは台北市中心部からのアクセスが良好な板橋区に位置し、周辺には行政機関や商業施設も多く、都市型大学としての利便性を備えている。教育環境の整備も進んでおり、ICTを活用した授業や実践的な演習スペースの充実が図られている。

このように、致理科技大学は、商業・経営分野を中心に、実務重視の教育と産学連携、国際交流を柱とした人材育成を行っている大学であり、台湾の産業界を支える人材供給の一翼を担っている。

今回、致理科技大学の学生にも大崎地域の紹介を行った。

3 研修内容（1月14日）

・ 現地日本語学校等のグローバル人材の取組や課題

3-4 東^{とう}呉^ご大学について

東呉大学では、国際交流の取組について、強みがあり、学生を海外に派遣するプログラムや世界各国の大学と交換留学協定を結ぶなど、国際化を重要な戦略として位置付け、学生が早期から国際経験を積む環境が整備されている。

中でも、今回紹介を受けた日本語学科については国際的な視野を備えるために、日本と台湾の文化交流に役立つ人材育成を目指し、実践的な学びを重視したカリキュラムを学生に提供している。

日本語学科の学習カリキュラムは1，2年次に文法・発音・基礎読解を中心に日本語の基礎を固め、3年次に日本語能力試験（JLPT）のN2レベル到達を目指している。そして、4年次には、豊富な日本関連蔵書を用いて、通訳・翻訳・日本文学研究などの高度科目で専門性を高め、実務に必要な能力を養っている。

その結果、東呉大学在学中にN2レベルの日本語能力の取得を必須としているが、多くの学生がN1レベル（最高位）を取得して卒業していくとのことだった。

東呉大学日本語学科を卒業した学生は日本台湾交流協会や、台湾・日本双方の高等教育機関に在籍しており、学術・人的交流の現場で活躍している。

また、在学中の学生も熊本県や仙台市での学生インターンシップや合同企業説明会等を通じて自治体レベルでの交流も活発に行われており、今回の視察でも大崎地域との交流やインターン受入れについても提案があった。

このように専門的かつ実務的なカリキュラムや日本での実務的な経験も踏まえることで、実践的な日本語能力を習得し、日本で活躍できる人材の育成を目指している。



3 研修内容（1月14日）

・半導体工場，産業施設等の視察

3-5 かぎたんさくかん 科技探索館について

科技探索館は、新竹科学園区の歴史と成果を体系的に紹介する展示施設であり、2007年に開館した。単なる科学展示施設にとどまらず、新竹が台湾のハイテク産業の中核都市へと発展してきた歩みを「歴史」、「産業・製品」、「科学技術・グリーン」の三層構成で示し、産業発展のプロセスを可視化している点が大きな特徴である。

新竹は台湾北西部に位置し、人口規模は必ずしも大きくないが、半導体・ICT・精密機器・バイオなどの先端産業が高度に集積し、「台湾のシリコンバレー」と称されるまでに成長している。

特に半導体分野においては、設計から製造、材料、パッケージングに至るまで一貫した産業エコシステムが形成されていることが強調されていた。世界的半導体企業 TSMC はその象徴的存在であり、台湾の GDP 及び輸出を支える基幹企業として国際的な競争力を確立している。科技探索館は、こうした産業基盤を次世代へ継承する教育拠点であると同時に、台湾の産業戦略を国内外へ発信する戦略的施設として位置付けられている。また、来館者が体験型展示を通じて先端技術に

触れられる構成となっており、産業理解の深化と理工系人材の裾野拡大に寄与している。

視察を通じて特に印象的であったのは、産業政策、教育、人材育成を一体的に推進する長期ビジョンの明確さである。企業集積地の中心に産業の歴史と将来像を示す拠点を整備することで、地域への誇りを醸成し、若年層の理工系志向を高める循環が構築されている。加えて、産業の成果を社会全体で共有する仕組みづくりが、持続的な競争力確保の基盤となっている点も重要である。

大崎地域においても、基幹産業の強みを体系的に可視化し、企業・教育機関・自治体が連動する拠点形成を検討することが、持続的かつ戦略的な産業振興につながるものと考えられる。



4 研修内容（1月15日）

・台北 MRT を利用しての歴史、文化施設等の視察

4-1 ちゅうせいきねんどう 中正紀念堂について

1月15日は台北市を走る都市高速鉄道である MRT を利用し、現地の公共交通機関を体験しながら歴史、文化施設等の視察を行った。

中正紀念堂は、初代総統の蒋介石の功績を称えるために建てられた施設であり、「中正」とは蒋介石の本名を指しています。蒋介石が亡くなった5年後に完成した。敷地面積は25万平方メートルに及び、象徴的な本堂のほか、公園や国立の音楽ホール、演劇ホールなども併設されている。



建物は、台湾の国章の色である青と白を基調として、台湾が世界的な産出国である大理石で建てられている。外からメインフロアに通じる階段は、蒋介石の享年と同じ89段になっている。

建物の中には、蒋介石に関する展示室や図書館、メインフロアなどがあり、メインフロアには巨大な蒋介石の銅像が設置されている。銅像の周りには、蒋介石の政治に関する基本理念

倫理、民主、科学」などの言葉が記されている。また、銅像は蒋介石が帰ることができなかった中国の方向を向いて座っている。天井は日本産のヒノキが使われ、国章の「青天白日」の徽章が施されており、建物の美しさから蒋介石への敬意を感じる造りになっている。



中正紀念堂前では、毎日1時間毎に儀仗隊の行進が行われている。元々は、メインフロアの銅像を儀仗隊が警備し、その警備の交代をパフォーマンスとして見学するものであったが、2024年7月から現在の行進のみのパフォーマンスに変更されている。このパフォーマンスは訓練やパトロールという名目で実施しているが、観光客や一般市民が台湾の陸・海・空軍から選ばれた衛兵の息の合ったパフォーマンスを無料で見学することができる貴重な機会となった。

4 研修内容（1月15日）

・台北 MRT を利用しての歴史，文化施設等の視察

4-2 たいぺいいちまるいち 台北101について

台北101は、台北市信義区にある地上101階建て、地下5階建ての超高層ビルである。名前は地上「101階建て」に由来し、高さは508mにもなる。2004年の完成当時は、「世界一の建築物」でした。建物の形状は「竹」を模して作られており、8階ごとの節（ふし）が積み重なるデザインになっている。

「8」は中華圏で縁起の良い数字であり、竹は「成長」と「柔軟性」を象徴している。施工には熊谷組をはじめとする日本の建築会社も関わり、日本の持つ技術力が使われている建物にもなっている。

台北101は大きく分けて地下1階から地上6階までの商業エリア、7階から87階までのオフィスフロア、89階から101階までの展望フロアに分かれ、一般開放されている商業エリアと展望フロアは国内外の多くの観光客で賑わっている。観光の目玉の一つともいえる展望エリアへは、5階のチケット売り場からエレベーターで行くが、このエレベーターは、東芝製の「高速エレベーター」で、2004年の完成当時世界最速のエレベーターとしてギネス世界記録にも認定され、5階から89階まで1分足らずで到着する。

今回は、地上89階の屋内展望エリアを見学したが、360度ガラス張りで、台北市内を一望できる観光客にうってつけの場所となった。

また、屋内展望エリアには制振装置として、直径5.5m、重量660トンにもなる巨大な鉄球が1,000本もの金属製のワイヤーで吊るされ、振り子のように動くことによって、強風による建物の揺れを相殺する効果がある。台北101は単純な超高層ビルというだけでなく、国内外の技術を活用し、様々な複合用途として使用される、台北のランドマークともいえる建築物となっている。



4 研修内容（1月15日）

・台北 MRT を利用しての歴史，文化施設等の視察

4-3 ^{し し なんそん} 四四南村について

四四南村とは台北 101 のすぐ足元にある，かつての軍人居住区をリノベーションした観光地です。もともとは，1948 年頃に大陸から渡ってきた大陸軍外軍工廠の従業員とその家族のために作られた，台北で最初の「眷村（けんそん）」という軍人村の一つである。

台湾では，古い建物を修復して新しい価値を吹き込む「文創（ぶんそう）」という文化が非常に盛んで，四四南村はその先駆けであり，最も成功した例の一つである。

近代化が進む中で取り壊しの危機に直面したが，そこを単なる古い遺構として残すのではなく，創造的な発信拠点として再定義した。そして，歴史的価値が認められ，兵士たちが暮らした質素な住居が，今では展示スペースなどに生まれ変わり，歴史を肌で感じながら文化を実際に見て体験し，楽しめる場へと変わった。

四四南村を訪問して，以下の二点に着目した。

一つ目は，保存スタンスの相違です。日本と台湾では，歴史的建造物に対する向き合い方に明確な思想の違いが見て取れる。日本では，古い建物を重要文化財として扱う際，当時の姿

を忠実に再現・維持することに重きを置く傾向がある。対して，四四南村では，建物の外観や歴史的な面影は保持しつつ，内部は現代の感性に合わせたカフェなどへ大胆に作り替え，活用している。

二つ目は，景観における美学の違いである。四四南村の最大の特徴は，超高層ビルである台北 101 の足元に，かつての軍人家族が暮らした平屋の廃屋群がある。日本の都市開発では，景観条例等によって周囲の環境や色彩を馴染ませる調和の美学が一般的であるが，ギャップを隠さず，ありのままに見せるコントラストが，台湾文創の象徴となっている。

四四南村は，歴史的な遺構を近代的な風景と衝突させることで，唯一無二の魅力を生み出している。馴染ませることに注力しがちな日本の地域再生において，この大胆な活用は非常に学びが多いと感じた。



4 研修内容（1月15日）

・台北 MRT を利用しての歴史、文化施設等の視察

4-4 国立台湾博物館について

ここでは、台湾の歴史や文化について理解を深めるため、国立台湾博物館を視察した。

国立台湾博物館は、1908年に日本統治時代の台湾総督府博物館として設立された台湾で最も歴史のある博物館であり、現在も当時の建築物を保存・活用し、台湾の自然、文化、歴史を分かりやすく伝えている施設である。

館内では、台湾の自然環境や先住民族の文化、近代史についての展示が行われ、日本統治期についても紹介されている。展示では、当時の台湾統治に関わった人物として、民政長官を務めた後藤新平や、台湾総督であった児玉源太郎の取組が上げられ、行政制度の整備や公衆衛生の改善、交通網の整備など、社会基盤づくりに力が注がれていたことが理解できた。

特に、後藤新平が現地調査や統計を重視し、台湾の実情を踏まえた行政運営を行った点や、児玉源太郎が統治の安定を図りながら政策を推進した点は、地域特性を理解した上で施策を展開することの重要性を示すものであり、現代の自治体行政にも通じる考え

方であると感じた。

また、先住民族に関する展示では、当時の民族衣装や武器などが、数多く展示されていた。民族衣装のコーナーで、添乗員から、自分の民族が他の民族衣装を安易に身に着けることは、文化への理解や敬意を欠く行為と受け取られる場合があることを説明され、多文化社会における相互理解には、正確な知識と配慮が不可欠であることを学んだ。

その他、台湾に生息していた生物などが展示されており、台湾の海洋・陸地の生態を学ぶことができた。

本視察を通じ、歴史や文化の違いを理解し尊重する姿勢は、国際交流の場面のみならず、地域行政における多文化共生や住民対応を進める上でも重要であると認識した。



5 団員研修報告

所属名	大崎市 民生部社会福祉課	
職名	主事	
氏名	渡邊 啓太	
1 研修内容		
<p>【1月14日】</p> <p>JTB 台湾及び提携機関である新北市農業局・金山漫遊・致理科技大学と交流，台湾の研究機関である東呉大学の日本語学科と交流，科技探索館の視察を行った。</p> <p>JTB 台湾での交流では，台湾新平市の地方創生をテーマとし，4つの機関が相互協力することで，日本人の修学旅行生向けの体験プログラムの提供をしているという官民一体となったビジネスモデルについて学ぶとともに，我々からは大崎地域を構成する各市町の紹介を行い，交流を深めた。</p> <p>東呉大学日本語学科との交流では，高度な日本語及び日本文化の研究を通じ，日本への深い理解を持つ国際的な人材育成について見識を深めた。</p> <p>科技探索館の視察では，半導体の作成過程や，多種多様な分野の製品を見学し，台湾が誇る世界トップクラスの水準の半導体技術への見識を深めた。</p>	<p>【1月15日】</p> <p>台湾の公共交通機関である MRT を利用し，中世記念堂・台北 101・四四南村・台湾国立博物館の視察を行った。台湾初代総督である蒋介石の功績を称え建築された建築物である中世記念堂は，台湾の歴史を象徴する建造物というだけでなく，儀仗隊の行進といった観光資源としての側面も学ぶことが出来た。台北 101 と四四南村の視察では，台北 101 を中心とし，大規模な都市開発を行いながらも，「文創」の考えのもと，歴史的意味のある四四南村を観光地としてリノベーションすることで，台湾独自の都市開発におけるモデルケースを学んだ。台湾国立博物館の視察では，展示物の見学を通じ，台湾の自然，先住民族文化，歴史について学んだ。</p>	

2 感想

本研修を通じ、当初の目的であった「多文化共生の視点」を十分に養うことができました。その最大の理由は、現地での体験を通じて、日本と台湾の「対外的な姿勢の違い」を肌で感じられた点にあります。

ビジネスの側面において、日本では市場やターゲットを国内に限定しがちですが、台湾では日本の技術を柔軟に取り入れつつ、日本をターゲットとした事業を展開するなど、極めて国際性が高いと感じました。

また、言語面でもその姿勢は顕著でした。飲食店をはじめとした多くの店舗で日本語での会話が可能であり、他言語への理解が非常に深いと感じました。日本人の多くは外国語に苦手意識を持ちがちですが、台湾では母国語に加え、英語、日本語をある程度流暢に話すことができる人が多く、社会全体として「多文化への受容性」が高いことが伺えました。

さらに、台湾は歴史的資産を観光資源へと昇華させる点においても優れていると感じました。日本では都市開発を行う際、景観を損ねないよう最大限配慮し、なるべく原型をとどめるように「保存」することが主流です。対して台湾では、古い建造物をリノベーションし、新しい価値を生み出すことに長けています。古いものをただ残すだけでなく、現代の文化と融合させて活用する姿勢に、多文化共生があるように思われました。

以上の経験から、異なる文化や古い価値観を排除するのではなく、柔軟に取り入れて新しい価値を創造する姿勢こそが、今後私たちにも求められる視点であると強く認識しました。

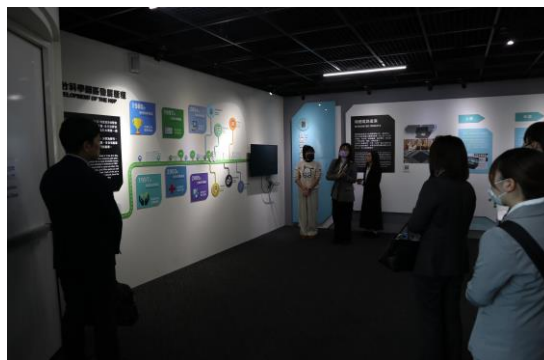
3 研修で学んだことをどう活かすか

本研修で得た「多文化共生」の視点は、多様化する市民ニーズに応える行政運営において極めて重要であると認識しました。

今後は、前例踏襲（保存）に陥ることなく、時代の変化に合わせて柔軟に見直し、より効果的な行政事務が行えるよう活かしていきたいと思います。



所属名	大崎市産業経済部産業商工課
職名	主事
氏名	大森 洋輝
1 研修内容	<p>を進める上でも、地域内にどのような人材が育ち、どのような支援体制があるかは重要な要素であり、産業政策と人材育成は切り離せない関係にあることを強く感じた。</p> <p>また、観光や体験型プログラムを通じて地域資源を高付加価値化する取組についても学んだ。台湾においても少子高齢化や若者流出といった課題を抱えており、日本の地方自治体と共通する問題意識のもと、地域の特色を生かしたまちづくりを進めていることが分かった。</p> <p>さらに、今回は近隣自治体職員との合同視察であったことから、移動や意見交換の時間を通じて各自自治体の課題や施策を共有することができた。互いの取組を知ることによって自地域を客観的に見つめ直す契機となり、広域的な連携の可能性についても考える貴重な機会となった。</p> <p>本研修は、台湾における産業政策や人材育成の取組を学ぶことを目的として実施された。私は企業誘致を担当していることから、半導体関連施設の視察を主たる目的として参加したが、結果として産業政策のみならず、人材育成や地域づくりの在り方まで含め、多角的な学びを得る機会となった。</p> <p>科学探究館の視察では、台湾が半導体産業を国家戦略として位置づけ、研究開発、人材育成、企業集積を一体的に推進してきた歩みについて説明を受けた。産業団地の整備にとどまらず、大学や研究機関との連携、次世代分野への投資までを見据えた長期的なビジョンのもと、計画的に政策を積み重ねてきたことが、現在の産業競争力を支えていることを実感した。産業振興は単発の施策ではなく、継続的かつ戦略的な取組の積み重ねであることを改めて認識した。</p> <p>東呉大学の訪問では、日本語教育を通じた人材育成や日本との交流実績について説明を受けた。語学力の向上にとどまらず、インターンシップや実務体験を通じて実践的な能力を養う仕組みが整えられており、国際的に活躍できる人材を戦略的に育てている点が印象的であった。企業誘致</p>



2 感想

本研修を通じて最も強く感じたのは、産業政策・人材育成・地域づくりを個別に考えるのではなく、相互に連動させながら長期的な戦略を描くことの重要性である。台湾では国家戦略のもとで継続的な投資と制度設計が行われており、その積み重ねが現在の成果につながっていることを実感した。また、近隣自治体職員との意見交換を通じて、多様な視点に触れることができ、自身の業務を見直す良い機会となった。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

今後は、企業誘致を単独の施策として捉えるのではなく、教育機関との連携や人材育成、国際交流を視野に入れた総合的な産業政策の構築を意識していきたい。特に、地域内外の教育機関や企業とのネットワークづくりを進め、人材と産業が循環する仕組みを検討していく。また、今回築いた自治体間のつながりを生かし、情報共有や広域的な連携事業の可能性についても探りながら、地域の持続的な発展につなげていきたい。



所属名	大崎市 民生部子育て支援課
職名	主事
氏名	氷室 友佳乃
<p>1 研修内容</p> <p>初日と最終日は、飛行機での移動だったため、2日目と3日目の研修について記載します。</p> <p>2日目の最初は、台北で地域創成に取り組む金山漫遊という企業の方から、JTB台湾支社で台湾の地方での産業の実情について伺い、研修団員からは、各市町村の取組や名産について紹介しました。台湾には広域事務組合のように、いくつかの市町村がお金を出し合い、同一の行政サービスを提供する仕組みがなく、金山漫遊の方は、特にその仕組みに強い関心を持たれていました。</p> <p>続いて訪れた東呉大学では、台湾でのグローバル人材育成について、日本語学科の教授から説明を受けました。東呉大学から日本の企業にインターンに来る学生が多いとのことでしたが、大崎圏域の市町村へのインターンについても前向きに検討されており、大崎市にグローバル人材を呼び込むきっかけになるのではないかと感じました。</p> <p>2日目の最後は、台湾が世界的なシェアを誇る半導体関連施設を見学し、台湾の半導体が使われている製品がたくさんあることがわかりました。半導体施設がある新竹という地域には、労働者や技術者が家族と</p>	<p>ともに引っ越してくるため、教育施設や企業が増え、都市としても発展しているとのことでした。</p> <p>3日目は台湾の公共交通のMRTで研修先を巡りました。始めに、台湾初代総統の蒋介石を称えるために建設された、中正紀念堂を見学しました。台湾が一大産出国である大理石が使われた豪華な造りや、名物である儀仗隊の行進から感じられるように、蒋介石の威厳を示すことを目的とした施設です。</p> <p>次に訪れた四四南村は、古い建物を文化創造の場所として観光地化した「文創」の一つであり、近くに建設されている高層ビルの台北101との対比が面白かったです。四四南村周辺に限らず、台湾では歴史的建造物や古くからの夜市と、新しい建築物が隣り合っており、古来からの文化と新しい文化を融合させることに長けていると感じました。</p> <p>最後に訪れた国立台湾博物館では、通常展示に加え、台湾創設の歴史について解説されていました。台湾の近代化に大きく貢献したと言われる日本人・児玉源太郎についての展示もあり、先人たちの取組が、現在の日本と台湾の関係を作り出したのだと改めてわかりました。</p> <p>研修で訪問した先のほかに、日々の生活</p>

を送る際にも、台湾と日本の文化や技術の違いを感じました。例えば、日本では家や公共施設、お店のトイレ全てでトイレトペーパーを流すことができますが、台湾では比較的新しい建物のトイレでしか、トイレトペーパーを流すことができず、日本の水洗技術の高さを実感しました。食文化も日本と異なり、台湾には甘い味付けの料理が多く、コンビニなどで売られているお茶にも基本的に砂糖が入っていました。実際に研修で現地を訪れたからこそ、このような文化の違いを発見できました。

2 感想

台湾に行くにあたり、事前にインターネット等で研修先や台湾について調べてきました。実際台湾を訪れてみると、その情報が正確だと知ることができたり、さらに新しい情報を得られたりしました。現地を訪れる醍醐味というのは、このような経験を得られる所だと感じ、これからも同様の機会があれば、積極的に参加していきたいと考えています。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

私は今回の研修で台湾に行くにあたり、台湾の方や文化に触れ、多文化共生社会の実現のために、日本以外の国籍の方の文化を尊重しながらのコミュニケーションを図る方法を探ることを目標としていました。今回の研修で台湾の方とコミュニケーションを取る際に、私たちの言葉や文化を知っている、または知ろうと努力をしている方には、安心感や満足感を感じました。

このことから、多文化共生社会の実現には、大崎市を訪れたり、住んでいる外国籍の方の言葉や文化を知ろうと努力し、相手にリスペクトを持って接することが重要だと感じました。多文化共生社会の実現のためにも、受け身の姿勢ではなく、積極性を持って様々な言語や文化を知る努力をしていきたいと思います。

中正紀念堂



所属名	色麻町 保険福祉課
職名	管理栄養士
氏名	佐々木 彩音
1 研修内容	療の質の向上につながっていることを確認した。
本研修では、企業や大学、歴史文化施設等の視察及び意見交換を行った。	歴史・文化の分野では、中正記念堂を視察し、台湾近代史を象徴する施設としての役割や、衛兵交代式を通じた歴史継承の取組を確認した。四四南村では、戦後に整備された軍関係者の住宅を保存し、展示やイベントで利用することで交流空間として活用されていることを確認した。歴史的資源を文化活動やイベントの場として活用することで新たな価値につなげる文創の考え方を具体的に学ぶことができた。国立台湾博物館では、台湾の自然環境や先住民族文化、近代史に関する展示に加え、当時の台湾統治に関わった児玉源太郎や後藤新平に関する展示があり、日本が台湾とともに歩んできた発展の歴史について説明を受けた。
はじめに、JTB 台湾を訪問し、新北市と地元企業である金山漫遊と JTB 台湾が連携して進めているまちづくり事業について説明を受けた。金山漫遊では、地域資源を活かした事業を継続的に実施しており、地域の魅力を発信する取組を行っていた。この事業は、農業体験や漁業体験などのプログラムを通じ、日本からの旅行者や修学旅行生が台湾の文化や暮らしに触れる機会を提供しており、行政と民間企業が役割を分担しながら交流人口の拡大を図っていた。当広域側からも各自治体の特色や取組を紹介し、相互理解を深める機会となった。	都市開発の視点では、台北 101 において耐震構造や高速エレベーターなどの技術について説明を受けた。外観には伝統的なデザインを取り入れ、新しさと歴史を融合させた都市景観づくりの考え方を確認した。
東呉大学では、教育の現状や企業連携インターンシップについて説明を受け、日本と関係する分野で活躍をする学生が多いことを把握した。教育機関と企業が連携し、地域で活躍する人材の育成と実務経験の機会を提供している点が印象的であった。	公共交通として台北 MRT を利用し、多言語による案内表示や分かりやすい案内体系など多様な利用者を前提とした仕組みを体験した。
続いて、半導体関連施設である科技探索館を視察し、台湾が世界的な半導体産業の拠点として発展してきた歴史について説明を受けた。医療分野においては、半導体技術を応用した機器の展示がされており、医	これらの視察を通じ、台湾では地域資源
の活用による関係人口の増加、先端の科学	

技術の導入が相互に結び付きながら、まちづくりが進められていることを学んだ。

2 感想

本研修は、歴史や文化を大切にしながら、現代社会に活かし、多文化共生を進めている台湾社会の特徴について学ぶ機会となった。歴史的建物の活用や産学連携などの取組は、歴史が人々の日常に溶け込み交流を生み出すきっかけとなっていると感じた。

また、公共交通機関や施設案内における多言語表示や分かりやすい情報の整理など、文化や言語の違いを特別なものとして扱うのではなく、日常の中で自然に受け入れられる体制が整えられていた。こうした積み重ねが、多文化共生や市民参加を支える社会の土台となっていると感じた。制度や施策のみならず、空間づくりや情報発信の在り方が誰もが参加しやすい環境づくりにつながっており、今後の行政運営を考える上で参考となる点が多いと感じた。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

今後は本町及び大崎広域においても、地域資源を活かしながら地域活性化につながる仕組みづくりを意識していきたい。具体的には、情報発信の分かりやすさや参加しやすい場づくりを見直し、住民が日常の中で自然に地域活動に関わることができる環境を整えることである。

また、産学官民の連携を意識し、既存の取組を行政で完結させるのではなく、地域内外の関係機関とつなげながら進めていくことが今後は重要になると認識した。多様な背景を持つ人々が安心して関わることのできる環境を整えることが、結果として町民参加のまちづくりや地域の持続性につながると考えられる。

本研修で得た視点を今後の業務に活かし、地域の実情に応じた形で、誰もが関わりやすい地域づくりに取り組んでいきたい。

〈写真：左 台北101 右 四四南村〉



所属名	色麻町 建設水道課
職名	技師
氏名	佐々木 和志
1 研修内容	<p>ドなどは、特に印象に残りました。</p> <p>次に、訪問した四四南村は、当初中国・青島の武器工場、四十四兵工場で働いていた人々とその家族が移り住み、彼らの集合住宅として長年使われていた地域を訪れました。1999年に都市開発の対象となり、住民は村を去ってしまいました。文化的な遺産として建物を残そうという声が高まり、住宅をカフェやショップ、資料館にリノベーションし、現在の四四南村が誕生しました。</p> <p>今では、四四南村は観光客からとても人気で有名な観光スポットとなっています。</p> <p>昼食は、台湾 101 という大きなショッピングモール内の施設でとりました。施設内では、様々な台湾商品が販売され、食事も数十種類の中から選ぶことができ、私は台湾ラーメンを食べました。</p> <p>続いて訪れた国立台湾博物館では、台湾の歴代の植物や動物が、模型図になって説明されている博物館です。日本の動物とは全く違う形や色がしていて驚き、台湾の様々な文化を学べ、良い経験になりました。</p> <p>夕飯は、叙香園という料理店で、台湾料理を堪能しました。</p>
<p>研修 1 日目は、仙台空港において、出発前に出発式を行い、これから始まる海外研修に対する期待と学ぶべきことを自分自身でもう一度確認しました。</p> <p>2 日目は、初めに新北市と金山漫遊と致理科技大学の方々に対して各市町の紹介を行いました。私の出身の色麻町の紹介の際には、ゆっくりと聞き取りやすいトーンで話すことを心掛け、町の魅力や物産等の紹介をすることができました。</p> <p>また、致理科技大学の日本語を学ぶ学部 of 生徒と交流をしました。致理科技大学の生徒は、日本に関係する質問も多く、学ぶ姿勢の違いや関心の高さを感じました。</p> <p>交流を通じて、話し方や考え方など経験したことのない新たな雰囲気を感じる事ができ、貴重な体験となりました。</p> <p>次に東呉大学に向かい、大学では施設の施設紹介やグローバル人材育成の取組について説明がありました。東呉大学にも日本語が学べるコースがあり、日本へのインターンなども実施しており、日本との関係を重視していることを感じる事ができました。</p> <p>3 日目は、初めに中正紀念堂へ行き、蒋介石に関する歴史などについて学びました。施設内での蒋介石の銅像や軍隊のパレー</p>	

2 感想

今回の海外派遣事業では、普段の業務ではできない、外国の方に町の紹介をしたり、交流を図ることができました。貴重な体験ができました。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

海外で行っていた公共工事の方法や品質管理、安全管理などを参考にしていき、町の公共工事の際に良いところを実際に組み込んで行きたいと思いました。

また、外国人の考えや生活を理解したうえで将来的に外国人向けの集合住宅を建てたいという目標ができました。



所属名	加美町 こども家庭課
職名	主事
氏名	後藤 遥佳
1 研修内容	<p>連機関等で活躍している。グローバル人材の育成として、熊本商工会に学生を受け入れてもらい長期インターンを実施しているとのことであった。</p> <p>科技探索館がある新竹市は台湾のシリコンバレーとも称されている半導体産業の中心地であり、探索館では半導体産業を始めとした先端技術に関する展示が行われていた。半導体技術の概要や台湾で開発された製品等について説明を受け、台湾における半導体産業の位置づけや当該施設が果たす役割について理解を深めた。</p> <p>中世紀記念堂は、中華民国の元総統である蒋介石を記念して建設された施設であり、台湾の民主化が進展し思想の自由が広がった現在では、記念堂前の広場が民主運動等の集会の場として利用されている。</p> <p>四四南村は、元々中国大陸から来た軍人や隣接する武器工場で働く人々の集合住宅として長年利用されていた場所であるが、都市開発の対象となり現在はカフェや資料館にリノベーションされ、文化施設として活用されている。資料館の展示には、かつて集合住宅で生活していた人々の暮らしが再現されており、地域の歴史について理解を深めた。</p> <p>台北 101 は、台北市を代表するランドマークで商業施設や展望施設を備えた複合</p>

施設であり、国内外から多くの観光客が訪れる主要な観光拠点となっている。また、観光施設としての役割に加えオフィス機能を併せ持つことで経済活動を支える拠点にもなっている。

国立博物館は、台湾における最も歴史のある博物館の一つであり、教育や文化の発信拠点として重要な役割を担っている。管内の常設展示及び企画展示を見学し、台湾の自然環境や生態系、文化的特色について理解を深めた。

2 感想

本研修を通じて、台湾における行政施策は地域資源を有機的に結び付けながら横断的に展開されていることを強く実感した。観光振興においては、農業や地場産業、温泉資源等と連携させることで地域全体の魅力向上を図っており、単なる誘客にとどまらない持続的な仕組みづくりが進められていた。また、博物館等の文化施設では台湾の文化的背景を分かりやすく発信し、観光と教育の双方の役割を担っていることが理解できた。

さらに東呉大学での視察を通じて、日本語教育をはじめとする国際的な視野を持った人材育成が積極的に行われていることを知り、将来を見据えたグローバル人材の育成が地域発展の重要な基盤となっていることを認識した。分野を超えた連携と将来を見据えた取組が、持続可能な地域づくりに

つながると感じた。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

今後は、本研修で得た学びを踏まえ、日々の業務の中でも相手の立場や背景を意識した対応を心がけていきたいと考えている。来客対応等においても、内容の正確さだけでなく受け手にとって分かりやすい伝え方になっているかを意識することの大切さを改めて感じた。また、多様な価値観や生活環境があることを前提に、固定的な考え方にとらわれず、柔軟な姿勢で業務に取り組んでいきたい。本研修で得た気づきを日々の実務の中で少しずつ活かしながら、より丁寧な対応を心がけていきたい。



所属名	加美町 商工観光課
職名	主事
氏名	高橋 歩
<p>1 研修内容</p> <p>本研修では、台湾における地方創生、歴史文化、科学技術、環境教育について、現地視察を通して多角的に学んだ。中でも特に印象に残ったのは、金山漫遊による地域ブランドづくりと、最先端技術を紹介する科技探索館の展示である。</p> <p>金山漫遊は、新北市金山区を拠点に地域資源を活用しながら、観光と教育を結び付けた活動を展開している。DMC として地域事業者と旅行会社をつなぎ、JTB と連携した教育旅行やサステナブルツアーを実施している点が特徴である。環境配慮型ツアーやリサイクル活動、農産物の再活用などを通して、持続可能な地域づくりを進めている。</p> <p>科技探索館では、台湾の先端産業と世界最先端技術について学んだ。館内には、シリコンバレーで活用されている製品や技術が展示されており、ドローン、人工関節、電子ペーパー、水素バッテリーなど多様な分野を網羅していた。GPS や IC チップを搭載した自動帰還型ドローンや、軽量型ポータブル X 線装置などは、医療や産業の現場での実用性の高さを感じさせた。</p> <p>また、台湾製の半導体技術は、任天堂のゲーム機や、BMW の車両にも活用されており、世界的に高い評価を受けていること</p>	<p>を学んだ。さらに、水素バッテリーバイクや色が変わるソーラーパネルなど、環境に配慮した技術開発も進められていた。</p> <p>中正記念堂では、台湾の近現代史を学び、四四南村では戦後の生活文化と都市開発の関係について理解を深めた。</p> <p>国立台湾博物館では、台湾社会の成り立ちを体系的に学ぶことができた。</p> <p>2 感想</p> <p>今回の研修を通して、台湾の観光、歴史、科学技術を実際に体験しながら学ぶことができ、とても貴重な経験となった。金山漫遊では地域の人々が協力して町を盛り上げている姿が印象的で、科技探索館では最先端技術に触れ、台湾の技術力の高さを実感した。現地で見te感じることで、学びがより深まった。</p> <p>3 今後研修で得たことをどのように活用していくか</p> <p>研修を通して、地域の発展には観光、教育、環境への配慮を組み合わせることが重要であると学んだ。</p> <p>また、体験型の学習は理解を深めるだけでなく、主体的に考える力を育てることに繋がると感じた。今後は、この経験を生かし、身近な地域の課題にも積極的に向</p>

き合っていきたい。

金山漫遊の地方創生



科技探索館



中正紀念堂



四四南村



国立台湾博物館



所属名	涌谷町 産業振興課
職名	主事
氏名	高泉 直季
<p>1 研修内容</p> <p>【14日】JTB台湾で「金山漫遊」の官民連携と環境配慮型観光を精査。東呉大学からは、大崎地域でのインターンシップ受入に関する具体的提案を受けた。また、科技探索館では先端技術による産業人材育成のモデルを学習した。</p> <p>【15日】台北 101 を実際に視察し、509.2メートルの高さを誇るランドマークが、展望台からの都市景観と商業施設・イベントを連動させ、いかに経済活動の核として機能しているかを確認した。また、国立台湾博物館等の視察を通じ、八田與一氏の功績を含む日台の歴史的絆を再認識した。</p>	<p>2 感想</p> <p>最大の学びは、個々の資源を「物語のあるブランド」として統合する重要性だ。SDGs等の教育的価値を付与し信頼を高める手法や、学生を「関係人口」として地域に深く関わらせる視点は、本町の振興に極めて有効であると感じた。</p> <p>3 今後研修で得たことをどのように活用していくか</p> <p>第一に、本町の観光・物産発信にストーリー性やSDGsの視点を導入し、国際的な信頼性を高める。第二に、東呉大学とのインターンシップ検討を通じ、グローバルな人的交流の基盤を構築する。第三に、近隣自治体との広域連携を深め「大崎地域」として統一的に台湾市場へ発信し、効果的な誘客と活性化を推進したい。</p> <p>今回の研修で得た多角的な知見を今後の地域振興に活かしていきたい。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">金山漫遊の方たちと</div> 	

所属名	涌谷町役場 福祉課
職名	主事
氏名	菅崎 文乃
<p>1 研修内容</p> <p>台湾での研修では、まず JTB 台湾を訪れ、新北市の農業行政や「金山漫遊」の観光施策を学び、大崎地域の PR を行いました。</p> <p>東呉大学ではグローバル人材育成の取組を聞き、施設を見学し、科技探索館では最先端の半導体産業を視察しました。翌日は MRT を利用して中正紀念堂や台北 101、四四南村、国立台湾博物館を巡り、現地の歴史・文化と都市インフラへの理解を深めました。</p> <p>2 感想</p> <p>行政・教育・産業の各現場を巡り、台湾の力強い推進力を実感しました。特に農業行政と観光を掛け合わせた地域振興の視点や、世界をリードする半導体産業の専門性には強い刺激を受けました。また、東呉大学での交流や文化施設の視察を通じ、グローバルな視点の重要性と、歴史を尊重しつつ近代化を遂げる都市の活気を感じました。多様な視点から地域を見つめ直す、非常に実りある研修となりました。</p>	<p>3 今後研修で得たことをどのように活用していくか</p> <p>研修での PR 演習や他市町の発表から得た、客観的に地域の特色を捉える視点を活かしたいです。地域行事に従事する際は、現場を支える職員の一人として、他地域の事例も参考にしながら、時代に合わせた柔軟な進め方を自分なりに意識して取り組みたいです。また、情報発信の実習経験を活かし、窓口においても、相手の状況に合わせた分かりやすい伝え方を徹底します。</p> <p>視察で感じたグローバルな視点を持ち、まずは自身の業務知識を深め、迅速で的確な対応を積み重ねることで、住民の方々がより安心して相談できる環境を整えていきたいです。将来的な増加を見据え、外国の方々への対応も意識し、自ら進んで声をかけるなど、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりに貢献したいです。</p> <div data-bbox="874 1547 1327 1816" data-label="Image"> </div>

所属名	美里町 産業振興課
職名	主事
氏名	工藤 駿
<p>1 研修内容</p> <p>JTB 台湾では、新北市農業局や金山漫遊の関係者と交流し、双方の自治体概要や取組を紹介し合った。地域資源を活かした観光・農業振興施策について理解を深めたほか、台湾側からは大崎地域広域事務組合が行うの広域行政の仕組みに関心が示されていた。</p> <p>東呉大学では、日本語教育や国際交流の状況について意見交換を行い、日本に対して高い関心を持っていることを実感した。</p> <p>科技探索館では、台湾国内で製造される半導体関連製品等の展示や研究機能を視察した。同施設は産業振興と技術開発を支える拠点であり、宮城県にある産業技術総合センターのような役割を担っていると感じた。</p> <p>また、中正紀念堂、四四南村、台北 101、国立台湾博物館を見学し、歴史的資源の保存活用、文化創意産業による地域再生、都市ブランド形成の取組を学んだ。</p> <p>2 感想</p> <p>台湾は、半導体産業が盛んであることを背景に、産業の技術力、製造力、さらには研究開発を支える支援体制が充実している点が印象的だった。単なる企業誘致ではなく、産学官連携や周辺環境整備を含めた総合的な産業政策が、現在の産業集積を支えていると感じた。</p>	<p>また、多民族社会の中で歴史や文化を尊重しながら発展してきた姿勢は、多文化共生を推進する上で重要な視点であると認識した。</p> <p>3 今後研修で得たことをどのように活用していくか</p> <p>本町は農業が基幹産業であるが、今回学んだ「産業基盤を支える環境づくり」の視点は活用の可能があると感じた。企業誘致においては、立地条件のみならず、人材育成や地域との関係構築を含めた支援体制の検討を進めていきたい。</p> <p>また、四四南村の事例を参考に、既存資源の磨き上げや空き施設の活用による新たな価値創出を図り、地域産業及び経済の活性化につなげていきたい。</p> <p>▼科技探索館</p> 

所属名	大崎地域広域行政事務組合 事務局総務課
職名	主事
氏名	早坂 洸大
1 研修内容 (1) 地方政府・現地観光団体等における紹介及び取組について JTB 台湾において、新北市農業局および金山漫遊の担当者から、台湾の地方行政が進める国際化政策とグローバル人材育成の現状について詳細な説明を受けた。台湾では、地域産業の国際競争力を高めるため、語学教育の強化や外国人材の受入れ促進が重要課題となっている。 特に新北市では、農産物の海外輸出拡大や観光資源の国際発信に力を入れており、地域の魅力を多言語で発信する取組が進められている。 また、現地日本語学校との連携により、日本企業への就職を希望する学生の育成や、地域産業と教育機関が協働する仕組みづくりが行われていることが紹介された。 一方で、台湾全体としては、若年層の海外流出、地域間の教育格差、外国人材の定着支援の不足など、国際化を進める上での課題も多い。担当者からは、行政・学校・企業が連携し、地域全体で国際化を支える体制づくりが必要であるとの意見が示され、日本の地方自治体が抱える課題との共通点も多く、今後の地域政策を考える上で参考となる示唆を得た。	(2) 東呉大学及び科技探索館について 東呉大学では、日本語学科主任より大学の沿革、教育理念、国際交流の取組について詳しい説明を受けた。同大学は語学教育に強みを持ち、特に日本語学科では、日本語運用能力の向上に加え、日本文化理解、ビジネス日本語、企業インターンシップなど、実践的な学びを重視したカリキュラムが整備されている。 また、日本の大学との交換留学制度や海外派遣プログラムも充実しており、学生が早期から国際経験を積む環境が整っている点が印象的であった。 こちらからは、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町、大崎広域の各市町の概要や地域資源について紹介し、今後の交流可能性について意見交換を行った。台湾の大学が地域社会と密接に連携し、学生の実践力を育てる姿勢は、とっても参考となるものであった。 科技探索館の視察では、体験型展示を通じて科学技術教育の工夫を学び、台湾が次世代人材育成に力を入れていることを実感した。

(3) 台北市内の歴史・文化施設視察について

台北 MRT を利用し、中正紀念堂、台北 101、四四南村、国立台湾博物館を視察した。

中正紀念堂では、蒋介石の歴史資料や衛兵交代式を通じ、台湾の政治史と民主化の歩みを理解することができた。

台北 101 では、耐震技術や都市計画に関する展示を通じ、台湾が国際都市として、発展してきた背景を学んだ。四四南村では、戦後の生活文化を保存・再生した取組を見学し、歴史的建造物を活用した地域活性化の事例として参考になった。

国立台湾博物館では、自然史・民族史の展示を通じ、台湾の多文化性と複雑な歴史背景を体系的に学ぶことができた。

2 感想

今回の台湾研修では、行政・大学・文化施設を幅広く訪問し、台湾の国際化への取組を多角的に学ぶことができた。全体を通じて、台湾の国際化への積極的な姿勢と、地域の未来を担う人材育成の取組を直接学べたことは大きな収穫であった。今回得た知見を、今後の地域づくりや国際交流の推進に活かしていきたい。

3 今後研修で得たことをどのように活用していくか

今回の研修で得た、台湾の行政・大学・地域が連携して国際化を進める取組は、大崎広域における地域づくりにも応用できると感じている。特に、教育機関や地域産業と協働しながら若い世代の実践力を育てる仕組みづくりは、今後の人材確保や地域活性化に直結する重要な視点である。

また、台湾の自治体が積極的に地域の魅力を海外へ発信している姿勢は、広域としての情報発信力を高める上で参考になる。

今後は、今回得た知見を生かし、国際交流の機会づくりに取り組み、広域全体の魅力向上と将来の担い手づくりにつなげていきたい。

【東呉大学での集合写真】



6 団員名簿

市町等名		氏名	性別	所属	班	
団 長	副管理者	はやさか 早坂	りえつ 利悦	男	色麻町長	
一般団員	大崎市	わたなべ 渡邊	けいた 啓太	男	民生部 社会福祉課	2班
		おおもり 大森	ひろき 洋輝	男	産業経済部 産業商工課	1班
		ひむろ 氷室	ゆかの 友佳乃	女	民生部 子育て支援課	2班
	色麻町	ささき 佐々木	あやね 彩音	女	保健福祉課	2班
		ささき 佐々木	かずし 和志	男	建設水道課	1班
	加美町	ごとう 後藤	はるか 遥佳	女	こども家庭課	1班
		たかはし 高橋	あゆみ 歩	男	商工観光課	2班
	涌谷町	たかいずみ 高泉	なおき 直季	男	産業振興課	1班
		かんざき 菅崎	あやの 文乃	女	福祉課	2班
	美里町	くどう 工藤	たかし 駿	男	産業振興課	2班
	大崎広域	はやさか 早坂	こうだい 洸大	男	総務課	1班

7 終わりに

本研修事業は、大崎ふるさとづくり基金を活用し、大崎地域の若手自治体職員を対象に、国際的な視野を持つ人材の育成を目的としています。海外の行政運営や地域づくりの現場に直接触れることで、これまでの枠にとらわれない新たな発想や価値観を獲得し、それを地域の発展へと還元していく取組において、国内では得られない刺激や学びを通じて、地域行政の未来を切り拓く力を得ることを研修のねらいとして実施しました。

研修では、台湾における自治体の先進的な取組、地域産業の振興策、教育機関でのグローバル人材育成の取組など、多岐にわたる分野の視察を実施しました。現地の行政担当者や教育関係者、企業スタッフと直接交流を図ることで、制度の背景や運用の工夫、地域課題への向き合い方など、机上の知識だけでは得られないリアルで具体的な学びを得ることにつながりました。特に、住民サービスの提供においては、利用者の利便性を最優先に考えた仕組みづくりが徹底されており、行政と住民の距離の近さを感じる場面が多く見られたとの報告がありました。こうした姿勢は、今後の地域行政においても大いに参考になるものと期待しております。

また、参加した一般団員からは、台湾の人々の温かいおもてなしや、柔らかく親しみやすいコミュニケーションにも深い印象を受けたとの声がありました。初対面であっても積極的に声をかけ、相手との距離を自然に縮めていく姿勢を異文化環境における関係構築の重要性を改めて実感する機会となりました。人と人とのつながりを大切にする文化は、行政サービスの質を高めるうえでも重要であり、住民との信頼関係を築くためのヒントが多く含まれているにちがいありません。

今回の海外派遣研修事業は、若手自治体職員の視野を大きく広げ、地域行政の未来を考えるうえで非常に貴重な機会となりました。参加した一般団員が、現地で得た学びや気づきを今後の糧として、より良い行政サービスの提供につなげ、地域発展に寄与できるよう、今後の日々の業務の中で積極的に活かしていくことに期待しております。